

(別紙1)

介護職員初任者研修における目標、評価の指針及び研修カリキュラム

1 介護職員初任者研修課程を通じた到達目標

- (1) 基本的な介護を実践するために最低限必要な知識・技術を理解できる。
- (2) 介護の実践については、正しい知識とアセスメント結果に基づく適切な介護技術の適用が必要であることを理解できる。
- (3) 自立の助長と重度化防止・遅延化のために、介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させるという視点が大切であることを理解できる。
- (4) 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活を送れるようにするために、利用者一人ひとりに対する生活状況の的確な把握が必要であることを理解できる。
- (5) 他者の生活観及び生活の営み方への共感、相手の立場に立って考えるという姿勢を持つことの大切さについて理解できる。
- (6) 自立支援に資するサービスを多職種と協働して総合的、計画的に提供できる能力を身に付けることが、自らの将来の到達目標であることを理解できる。
- (7) 利用者本位のサービスを提供するため、チームアプローチの重要性とその一員として業務に従事する際の役割、責務等を理解できる。
- (8) 利用者、家族、多職種との円滑なコミュニケーションのとり方の基本を理解できる。
- (9) 的確な記録・記述の大切さを理解できる。
- (10) 人権擁護の視点、職業倫理の基本を理解できる。
- (11) 介護に関する社会保障の制度、施策、サービス利用の流れについての概要を理解できる。

2 各項目の「到達目標・評価の基準」

(1) ねらい (到達目標)

「ねらい (到達目標)」は、各項目が、実務においてどのような行動ができる介護職員を養成しようとするのかを定義したものである。

介護職員初任者研修修了時点で直ちにできることは困難だが、研修事業者は、研修修了後一定の実務後にこの水準に到達する基礎を形成することを目標に、研修内容を企画する。

(2) 修了時の評価ポイント

「修了時の評価ポイント」とは、介護職員初任者研修において実施する受講者の習得状況の評価において、最低限理解・習得すべき事項を定義したものである。

研修事業者は、受講者が修了時にこの水準に到達できていることを確認する必要がある。

「修了時の評価ポイント」は、評価内容に応じて下記のような表記となっている。

ア 知識として知っていることを確認するもの

知識として知っているレベル

【表記】

- ・「列挙できる」…知っているレベル
- ・「概説できる」…だいたいのところを説明できるレベル
- ・「説明できる」…具体的に説明できるレベル

筆記試験や口頭試験により、知識を確認することが考えられる。

イ 技術の習得を確認するもの

実技演習で行った程度の技術を習得しているレベル

【表記】

・「～できる」「実施できる」

教室での実技を行い確認することが考えられる。

ウ 各項目の内容例

各項目の「内容例」に示す、「指導の視点」及び「内容」は、各項目の内容について例示したものである。

3 研修カリキュラム

項 目	科 目
1 職務の理解（6時間）	（1）多様なサービスの理解
	（2）介護職の仕事内容や働く現場の理解
2 介護における尊厳の 保持・自立支援 （9時間）	（1）人権と尊厳を支える介護
	（2）自立に向けた介護
3 介護の基本（6時間）	（1）介護職の役割、専門性と多職種との連携
	（2）介護職の職業倫理
	（3）介護における安全の確保とリスクマネジメント
	（4）介護職の安全
4 介護・福祉サービスの 理解と医療との連携 （9時間）	（1）介護保険制度
	（2）医療との連携とリハビリテーション
	（3）障害福祉制度及びその他制度
5 介護におけるコミュ ニケーション技術 （6時間）	（1）介護におけるコミュニケーション
	（2）介護におけるチームのコミュニケーション
6 老化の理解（6時間）	（1）老化に伴うこころとからだの変化と日常

	(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解 (6時間)	(1) 認知症を取り巻く状況	
	(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
	(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	
	(4) 家族への支援	
8 障害の理解 (3時間)	(1) 障害の基礎的理解	
	(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
	(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (7.5時間)	イ 基本知識の学習 (10~13時間程度)	(1) 介護の基本的な考え方
		(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解
		(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解
	ロ 生活支援技術の講義・演習 (50~55時間程度)	(4) 生活と家事
		(5) 快適な居住環境整備と介護
		(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
		(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
		(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
		(9) 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
		(10) 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護
		(11) 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

		(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護
	ハ 生活支援技術演習 (10～12 時間程度)	(13) 介護過程の基礎的理解
		(14) 総合生活支援技術演習
10 振り返り (4 時間)		(1) 振り返り
		(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修